

# 今、食について知らなければならないこと —微生物の視点で捉えなおす環境・健康・社会—

講師 印鑰 智哉 さん

日時 2019 年 5 月 30 日 (木) 14 時 15 分～16 時 (13 時 15 分～14 時は総会)

会場 横浜情報文化センター大会議室 (裏面地図参照)

主催 認定 NPO 法人 化学物質過敏症支援センター  
(CS 支援センター) TEL.045-222-0685

参加費 1,000 円

## 講師 プロフィール

アジア太平洋資料センター (PARC)、  
ブラジル社会経済分析研究所 (IBASE)、  
Greenpeace、  
オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はフリーの立場で世界の食と農の問題を追う。  
ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』(2015 年)、  
ドキュメンタリー映画『種子—みんなのもの? それとも企業の所有物?』(2018 年)  
いずれも日本語版企画・監訳。  
『抵抗と創造のアマゾン—持続的な開発と民衆の運動』(現代企画室刊、2017 年)  
共著で「アグロエコロジーがアマゾンを救う」を執筆。

ヒトの体はおよそ 30 兆個の細胞からなりますが、その体の内外、腸管や鼻腔・口腔・耳腔・皮膚など、あらゆる場所に 100 兆個もの細菌が常在しています。

「私」、と言う場合に、最近まではこれら全てでは脳に匹敵する重量の細菌たちを含めずに、いわば無いものとして、自身を考えてきましたが、今や様々な種類の細菌の仕事ぶりとヒトとの関りが明らかとなってきて、私たちが一人で立っていたのではなかったこと、私たちの体を住み家とする細菌と共生し、研究が進むにつれ、もはや私と細菌との境界もはっきりしないほど、深くつながっていたことが分かってきました。

土壌もヒトも、同じように微生物によって成り立っているのに、私たちは農薬や除草剤、抗生物質など多くの化学物質によってそれらを痛めつけてきました。さらにグローバル企業による食の破壊や微生物をめぐる製薬会社の動きなど、環境や健康がごく一部の企業によって左右されるような時代が到来しています。

見えなかったから無いものとされてきた世界の半分—微生物の視点で、食をめぐる問題をお話しいたします。

## 参加申込書

CS 支援センター 会員・非会員 いずれかに○をお付けください。

お名前 \_\_\_\_\_ お電話 \_\_\_\_\_

ご住所または所属 \_\_\_\_\_

CS 支援センター FAX.045-222-0686

※5月27日までにお申し込みください。